



# 湘南いきもの楽校

2024 年度活動報告書

子どもが元気、生きものの元気、地域が元気



NPO 法人 暮らし・つながる森里川海

様式 8

1. 川づくり団体部門

[概要版報告書]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-017	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進	NPO 法人暮らし・つながる森里川海 理事長 白井 勝之
<b>活動の目的</b>		
<p>「子どもが元気、生きもの元気、地域が元気」を合言葉に、「相模川いい川づくり」「川の自然と触れ合える場づくり」「自然体験・環境教育の推進」を3本柱に多様な活動を展開しています。馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を図るため、自然生態園として、有すべき諸機能の整備を進めています。</p>		
<b>事業テーマ</b>	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進	
<b>助成事業の要旨</b>	<p><b>【実施事項】</b> 馬入水辺の楽校の利活用促進を図るため、フィールドミュージアム作りを基軸に多様な活動を展開しました。組織力を強化するため会員主導の催しに取り組みました。</p> <p>(1) 生物多様性の保全活動 草刈りなどの環境管理活動、バタフライガーデンづくり、生きもの広場づくり カヤネズミの生息地保全、ウナギの棲む川づくり運動</p> <p>(2) 多様な環境学習活動の展開 お魚調べ、水質検査、ヤギ島探検ツアー、川の自然楽校、地べた探検、ナイトウオークなど</p> <p>(3) 流域での活動展開 相模湾ネイチャーウォッチングクルーズ、平塚新港岸壁採集、 ビーチコーミング、相模川クリーンキャンペーン</p> <p>(4) SDGs 運動の推進 「湘南ピクニック・土手の下のSDGs」の開催</p> <p>(5) 組織基盤の強化 大展示会「湘南生きもの楽校物語」の開催、平塚市図書館・ひらつか市民活動センターでの展示会開催、</p> <p>(6) 地域との連携活動 松原小学校、八幡小学校、平塚中等教育学校、松原自治会、松原公民館、 平塚市漁業協同組合、桂川相模川流域協議会、市民活動センター、国土交通省、平塚市</p> <p>(7) 広報活動の強化</p> <p><b>【成果】</b> 催し回数 62 回、参加者 2,116 人（大人 628、子ども 1,244、講師 11、スタッフ 233）の成果となりました。天候不順や猛暑、南海トラフ地震警報に悩まされ、予定していた催し 14 が中止となりました。上下流交流会は南海トラフの地震警報が出されたため、前日に中止の判断をしました。催しはリピート参加者が多く、展示会開催やバタフライガーデン作りなど、心の通う人間関係が醸成されつつあります。これにより、新たに女性運営委員 2 名が誕生しました。関連して、会員自ら実行する取り組み「馬入写真楽校」が新年度より開催されます。特記すべきは日本自然保護協会の自然保護大賞「選考員特別賞」及び国土交通省手づくり郷土賞を受賞したことで、これをきっかけに行政との連携が一步前進しました。</p> <p><b>【今後の展望】</b> 継続は力なり。実施事項を絞り、できることを着実に進め、PDCA サイクルの輪を回転させ、課題の解決にあたっていきます。行政や企業との連携強化を強化していきます</p>	

※ポイントとなる事項に適宜アンダーラインを引いてください

様式 9

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-017	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進	NPO 法人暮らし・つながる森里川海 理事長 白井 勝之
助成事業実施成果の自己評価	<p><b>〔計画の妥当性〕</b>                      これまで実施してきたことを拡充強化し、詳細な年間計画を策定した中で取り組んでいます。会員の声を聞き、活動に反映させています。PDCAの輪を回しながら、前に進んでいます。</p>	
	<p><b>〔当初目標の達成度〕</b>                      フィールドミュージアム作りについてはスタッフや会員の努力により、ブッシュ的な環境が減り、生物多様性がアップしました。明るく見通しの良い環境になったため、来校者が増加しています。嬉しいことに市内の保育園が恒常的に園児を遊ばせる場として利用してくれています。土手滑りなどを楽しんでいます。                      環境学習活動はリピート参加者が多数を占め、心の通う人間関係が醸成されつつあり、女性の運営委員2枚が誕生しました。行政との連携強化については、二つの賞の受賞をきっかけに、一步前進し、風車の修繕に結びつきました。加えて、カエル池の修繕も実施されることになり、2025年度より官民連携で実施することになりました。</p>	
	<p><b>〔助成事業の効果〕</b>                      助成のおかげで多様な活動が展開でき、成果を上げることができています。多様な情報もいただき、ありがたく思っております。</p>	
	<p><b>〔河川管理者等との連携状況〕</b>                      国土交通省の河川協力団体として、相模川いい川づくりに取り組んでいます。相模川ふれあい懇談会のメンバーとして、自然環境の保全や流域治水対策などに参加しています。お魚調べ・水質検査で京浜河川事務所と協働しています。湘南ピクニック土手の下のSDGsでは流域治水でブース出店していただいています。次年度はカエル池復元活動で協働実施することが決まっています。</p>	
	<p><b>〔キーワード〕</b>                      人と人、人と自然の繋がる関係づくり                      トライアンドエラー                      できることを着実に                      ない夢は追わない</p>	

## 2024年度成果報告

「子どもが元気、生きもの元気、地域が元気」を合言葉に、「相模川いい川づくり」「川の自然と触れ合える場づくり」「自然体験・環境教育の推進」を3本柱に多様な活動を展開しました。催し回数62回、参加者2,116人（大人628、子ども1,244、講師11、スタッフ233）となりました。リピート参加者が多く、人と自然、人と人がつながる楽しい催しとなりました。大きな成果として、新年度から、会員運営による「馬入写真楽校」が開催されることになりました。

天候不順や猛暑、南海トラフ地震警報に悩まされた一年となりました。予定していた催し14が中止となりました。8月10日に計画した桂川・相模川上下流交流会は南海トラフの地震警報が出されたため、前日に中止の判断をしました。悩みましたが山間部での開催でしたので、安全第一で判断しました。以降、地震につきましては緊急速報が聞けるラジオを持参している他、参加者に地震発生時の避難方法を示すなど、神経を使っています。また、熱暑対策として、2025年度以降、8～9月の催しの開催を控えることになりました

### \*一歩前進フィールドミュージアムづくり

長期運営の仕組みづくりを図るため、馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化（生態園）を進めました。バタフライガーデンづくりについては「人が見ても綺麗で、生きものが集まる庭づくり」をコンセプトに2020年5月から取り組みを開始しました。雑草対策など、紆余曲折がありましたが、花々が咲き乱れるビオトープガーデンが完成しました。まだ発展途上で継続的管理が必要ですが、2025年度以降はバタフライガーデンチームを編成し、より良い庭づくりを進めていくことになりました。

生物多様性の保全策として、外来種オオブタクサやセイタカアワダチソウの除草に加え、繁茂する竹林や葛、ノイバラを刈り取りました。ブッシュの環境が減少し、生物多様性が向上した他、明るく見通しの良い環境になったため、来校者が増加しました。見晴らしヶ丘を覆っていた竹林が一掃され、子どもたちの丘登りの丘に変身しました。

懸案事項であった風車の修繕については管理責任者である平塚市と国土交通省京浜河川事務所の支援で12月2日に修繕が実施されました。揚水機能が復活し、汲み上げられた水がカエル池に流れた時、仲間たちから歓声が沸き起こりました。関連して、カエル池の復元工事も実施してくれることになり、新年度から市民と行政職員とのコラボで復元作業に取り組むことになりました。フィールドミュージアムづくりが一歩前進しました。

### \*多様な催しの開催

柱である環境学習活動については、お魚調べ、水質検査、ヤギ島探検ツアー、川の自然楽校、地べた探検、ナイトウォークなど、多様な催しを展開しました。レイチェルカーソンの「知ることは感じることの半分も重要ではない」を金言に五感を育む環境学習活動を展開しました。2018年に発行した「馬入水辺の楽校ガイドブック」をリニューアルしました。

猛暑対策については帽子必携、水分補給を都度促しました。熱中症計を持参し、気温をチェックし、暑さが厳しい場合は日陰に避難するようにしました。地震については催し開始時に注意喚起し、避難方法、避難場所への移動方法を指示しています。



### \* 学校連携

地元、松原小学校と八幡小学校の要請を受け、環境学習活動を3回開催しました。平塚市中等教育学校（高校一年生）が取り組んでいる生徒の自己探求を促すプロジェクト「自分ラボ」の授業を2チーム、合計8回開催しました。結果として、湘南ピクニック土手の下のSDGsで、生徒による「葉っぱスタンプ」のプログラム開催やオニグルミを主たるテーマに馬入水辺の楽校の紹介ビデオを作成してもらいました。3校とも生徒や先生との交流が図れる取り組みとなり、次年度も継続実施されることになりました。

### \* SDGs の促進

馬入水辺の楽校の利活用促進とSDGs運動を促進するため、「湘南ピクニック・土手の下SDGs」を開催しました。クズつるの綱引きや輪投げなどの野遊び、自然ガイドや水辺の楽校のパネル展示、生き物のダンボールアート展などを実施し、水辺の楽校の自然の素晴らしさをPRすることができました。夜の部の紙コップキャンドルは天候不順で中止となりました。雨模様だったため、来場者が300人と少なかったのは残念でしたが、子どもたちの遊び声が溢れる素敵な催しとなりました。環境をテーマにした催しが地域にないことから、今後も拡充強化していきます。

### \* 運動の輪を流域へ

漁船に乗り、故郷の海の自然と触れ合うイベント「相模川湾ネイチャーウォッチングクルーズ」は全員が初体験。暮らしの近くに大海原が広がっていることを体感しました。平塚海岸のビーチコーミングは相模川と花水川の二つの流入河川があるため、陸からの漂着物も見られ、森と海が繋がっていることが知れます。多様な生き物と出会うことができるため、ナチュラルリストを育てる絶好の場となっています。平塚新港での岸壁採集では平塚市漁業協同組合との連携で山梨県の市民と交流することができました。偶然にも上下流交流会で訪れている上野原市市民が来訪され、話が弾みました。今後の発展が期待されます。

### \* 二つの賞を受賞

最大の成果はとても良い人間関係が醸成されつつあることで、みんなの畑や会員交流会、大展示会「湘南いきもの楽校物語2024」の開催など、心の触れ合える催しが開催できたことが何よりも嬉しく思います。

特記すべきは、日本自然保護協会の自然保護大賞「選考員特別賞」を受賞した他、国土交通省の手づくり郷土賞（国土交通大臣賞）をいただいたことで、関係者の皆様のご支援の賜物と深く御礼申し上げます。

新年度も馬入水辺の楽校の利活用促進を軸に、長期運営の仕組みづくりに邁進いたします。引き続きのご支援を頂けますよう、よろしく願い申し上げます。



2025年4月1日

NPO 法人暮らし・つながる森里川海  
理事長：白井 勝之

## 2024 年度活動概要

### ●フィールドミュージアムづくり

目標である川の自然と触れ合える場づくりを図るためには、草刈りなどの日常的な管理作業が必要です。見晴らしヶ丘の竹林伐採や葛の刈り取りなど、大変な作業ですが、必死になって取り組んでくれる会員のおかげでエコアップできています。



\*整備する前の見晴らしヶ丘の周辺

竹林で覆われ、暗く鬱蒼としていました。来校者の安全管理上からも問題がありました。刈り取るのに3年ほどかかりましたが成果は大。光がよく当たるのでシロバナタンポポが咲き乱れています。子どもたちが丘登りを楽しんでいます。

●環境学習活動と連動したエコアップ

トンボ池づくりやトトロの迷路づくり、エコスタックづくりなど、環境学種活動と合わせたエコアップに活動に取り組んでいます。子どもたちはノコギリやスコップを使うのが大好きです。



新トンボ池づくり



朽木積み



朽木の中の生き物探し



竹林整備と隠れ家づくり



生きもの広場はその名の通り、いろんな生きものが見られます。ヒメマイマイカブリやクワガタムシ、カブトムシの幼虫などが子どもたちを魅了します。エコアップの成果を体感することができます。

● バタフライガーデンでSDGsのメッセージ発信

人が見ても綺麗で、生き物が集まるバタフライガーデンづくりに取り組んでいます。20m×18mとそう広くもない面積ですが、ここまで来るのに5年余りかかっています。チガヤの根っこ抜きや雑草類の除草、水やりや苗の定植など、みんなの力が形になりました。訪れる市民が増加しています。声がけし、取り組みの内容を説明するように心掛けています。2025年度からバタフライガーデンチームにより運営されます。



いろんな生きものが見られます。雛連れのキジが花々の中を歩き回っていました。ヒメクロホウジャクが吸蜜に来ていました（写真左）。在来種を育てようと、校内のカントウヨメナを探し、移植しました。ジャコウアゲハを呼ぼうとウマノスズクサも植えました。これからの楽しみです。

### ●ウナギの棲む川づくり運動

絶滅危惧種ウナギを守るため、石倉カゴを2基、設置しています。桂川・相模川流域協議会と協働で年2回調査活動を実施しています。市民も参加し、川の生きものとの触れ合いを楽しんでいます。国土交通省京浜河川事務所との協働で水質検査も実施しています。PHチェックと透視度を測定し、生きものが棲める水質であることがわかりました。



魚獲りは野遊びの王様です。ウナギやハゼ類など、たくさんの生きものが見つかります。その都度、歓声が沸き起こります。水質検査でPHや透視度を測定しました。少し濁りがありますが、生きが棲める良好な環境であることがわかりました。稚魚がたくさん捕獲できるのは繁殖がうまく行っていることの証左であります。

●多様な環境学習活動の実践

「レイチェルカーソン」の「知ることは感じることの半分も重要ではない」を金言に、五感で感じる自然観察を心掛けています。

●ヤギ島探検ツアー

大潮の干潮時にヤギ島（大きな中洲）に歩いて渡り、ライフジャケットの訓練や魚採りなどを楽しみます。大人気の催しで、80人余の市民が参加しました。川遊びが初めての子どもたちが多く、川面に笑顔が溢れました。暮らしの近くのプチ冒険。川の干満の凄さを体感できます。



ライフジャケットの訓練を実施している団体は地域にありません。最初は恐る恐るですが、講師の指導で川流れや水中でのローリングなど、水に慣れてくるともう大変、元気な声が川面にこだまします。スローロープを投げる訓練や魚獲りも楽しくて、親子で川遊びを楽しみます。

●水辺の楽校のトコロジストになる

水辺の楽校のことなら大抵のことがわかるナチュラルリストの育成を目指しています。生きもの調べやお散歩バードウォッチング、地べた探検、ナイトウオーク、バッタ飛ばし大会など、多様な活動を展開しています。



本流、湿地、草原、河畔林、花畑等、多様な自然環境があるから、多様な生きものが息づき、多様な自然遊びが楽しめます。こんな場所はそうそうありません。いつまでも残していきたいと思っています。

●アウトドアライフを楽しむ

竹を切ったり、ロープワーク習い、隠れ家を作ったり、野草を食べたりなど、アウトドアに必要な知識やスキルを学びます。大人気の催しです。



●森と海はつながる

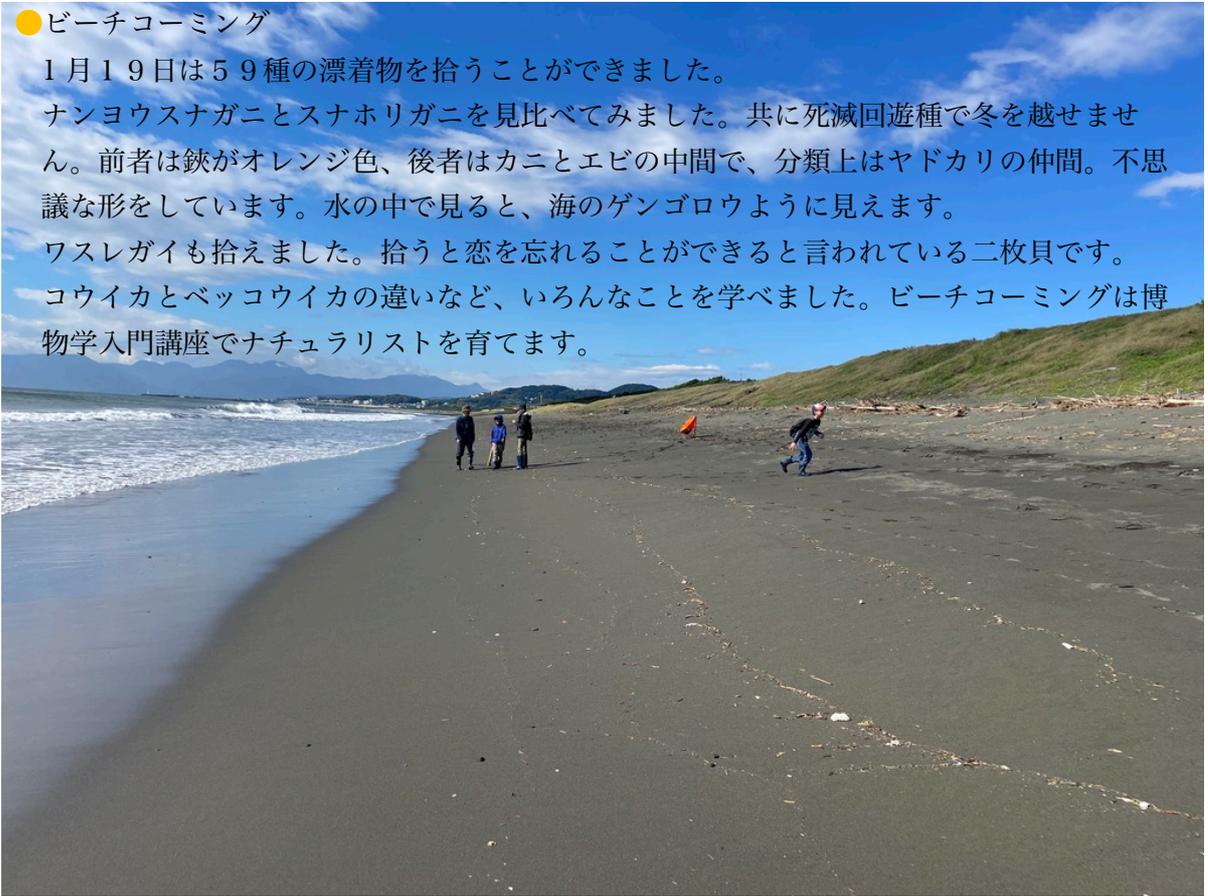
運動の輪を流域へ広げようと上流部、山梨県との上下流交流会や平塚の海の自然と触れ合う催しを実施しています。残念ながら上下流交流会は地震警報により中止になりましたが、平塚新港の岸壁採集で、偶然にも山梨県上野原市の市民が来訪され、交流を図ることができました。



平塚市漁業協同組合との連携で実施しています。平塚の漁業のことや試行的に実施されている人工魚礁のことを教えてもらいました。県立生命の星・地球博物館の和田英敏先生にお魚のことなど、ご指導をいただきました。

●ビーチコーミング

1月19日は59種の漂着物を拾うことができました。  
ナンヨウスナガニとスナホリガニを見比べてみました。共に死滅回遊種で冬を越せません。前者は鉄がオレンジ色、後者はカニとエビの中間で、分類上はヤドカリの仲間。不思議な形をしています。水の中で見ると、海のゲンゴロウのように見えます。  
ワスレガイも拾えました。拾うと恋を忘れることができると言われている二枚貝です。  
コウイカとベッコウイカの違いなど、いろんなことを学びました。ビーチコーミングは博物学入門講座でナチュラルリストを育てます。



宝物の種類を識別



スナガニ



陸からのもの、海からのもの  
宝物がいっぱい集まった



ナンヨウスナガニ (左) と  
スナホリガニ (右)

●第4回「湘南ピクニック土手の下のSDGs」

11月10日、馬入水辺の楽校の自然環境や取り組みをPRするため「湘南のピクニック土手の下のSDGs」を開催しました。天候に恵まれませんでしたがたくさんの方で賑わいました。クズのつるの綱引きなど水辺の楽校にあるものを使った野遊びが人気となりました。平塚中等教育学校の生徒の皆さんが葉っぱスタンプのプログラムを実施してくれました。



水辺の楽校の守り神



クズのつるの綱引き



音遊び



葉っぱスタンプを楽しむ



スタンプラリー



原っぱ電車

● みんなの畑

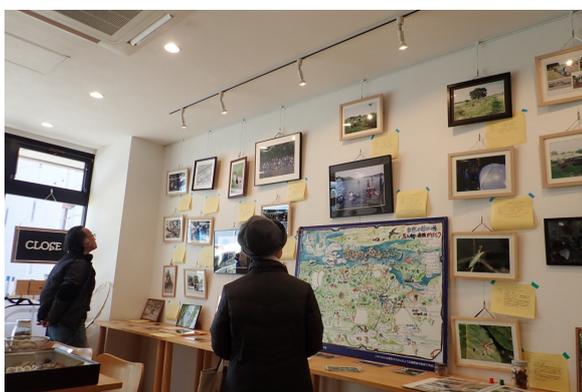
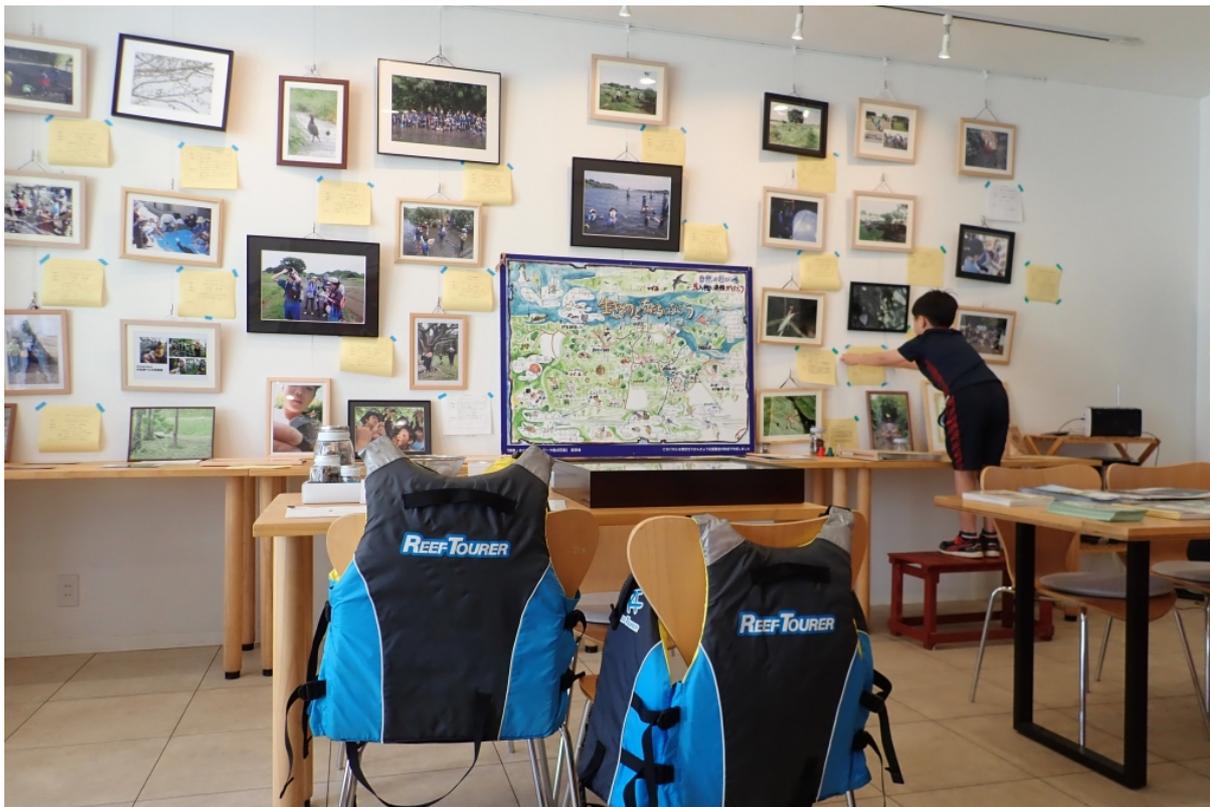
今日からあなたも生産者。作る人、食べる人の垣根を取り払った消費者参加型農業に取り組んでいます。肥料や農機具などが無くても、農業を楽しめます。農薬や化学肥料を使わない自分で作った安心・安全野菜を食べられるのが魅力です。



農業は最高の環境学習活動です。ジャガイモを植えたり、焼き芋を食べたり、里山で落ち葉を集め、踏み込み温床を作ったりなど楽しいことがてんこ盛りです。

## ●大展示会

一年の活動成果を発表する「湘南いきもの楽校物語」大展示会を2月23～24日、「まちなかベースきちぎち」で開催しました。会員の撮影した写真やビーチコーミングの宝物などが展示され、来場者で賑わいました。生きもの好きの子どもたちが集まり、あーじゃない、こーじゃないと生きもの談義に花が咲きました。チラシを見て、来てくれたお友達が「観察会に参加する」と元気な声で応えてくれました。3～4月、ひらつか市民活動センターでも展示会を開催しました。



## ●二つの賞を受賞

### \* 「日本自然保護大賞 2024 選考員特別賞」

公益財団法人日本自然保護協会より、「日本自然保護大賞 2024 選考員特別賞」を受賞しました。地域性、継続性、先進性、協働性をポイントに審査され、87件の応募から選ばれました。12月7日、馬入水辺の楽校で受賞セレモニーが開催されました。当日は馬入水辺の楽校の自然や環境学習の取り組みを知ってもらおうと、会員や来賓の皆さんと一緒に朽木の生きものを探しを楽しみました。授賞式では子どもたち3人が水辺の楽校の魅力をテーマに作文を朗読してくれました。杉山喜一前会長が開校当初の苦労話を語ってくれました。多くの皆さんの想いが今日の受賞に結びつきました。自然保護協会の方々や会員、NPO フェージョン長池、湘南 NPO サポートセンター、松原自治会、松原公民館、松原小学校、八幡小学校、中等教育学校、平塚市漁業協同組合、平塚市、国土交通省京浜河川事務所など、62名の方々が集まり、明るい笑顔が会場を包みました。

### \*手づくり郷土（ふるさと）賞

優れた地域づくりの取り組みを国土交通大臣が表彰する「手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞しました。全国の応募団体の中から地域の魅力や個性を生み出す活動が評価され、選定されました。2月17日認定証伝達式が平塚市役所で行われました。国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所佐々木昇平事務所長（左端）と落合克宏市長（右端）から祝辞をいただきました。3月1日に受賞記念発表会が東京で開催されました。全国から来られた団体と実りある交流が図れました。



NPO法人暮らし・つながる森里川海「2024年度活動実績」

月	催し回数	日	活動内容	参加者				
			行事名	大人	子供	講師	スタッフ	合計
4	1	6(土)	バタフライガーデンづくり	3	4		3	10
	2	13(土)	みんなの畑	2	5		2	9
	3	14(日)	バタフライガーデンづくり	9	10	1	4	24
	4	20(土)	お魚調べ	10	11		3	24
	5	27(土)	生きもの調べの会	13	13		3	29
	6	28(日)	緑化祭り	30	100		5	135
5	7	3(金)祝日	お散歩バードウォッチング	6	5		4	15
	8		バタフライガーデンづくり/トンボ池エコアップ	2	3		4	9
	9	4(土)	みんなの畑	2	3		2	7
	10	6(月)祝日	お魚調べ(流域協議会・国土交通省)	12	12		17	41
	11	11(土)	ネイチャーウォッチングクルーズ	9	6		2	17
	12	12(日)	クリーンキャンペーン	43	4		3	50
	13	18(土)	ピーチコーミング	10	6		5	21
	14	19(日)	会員交流会	5	7		12	24
	15	25(土)	生き物調べ(カヤネズミ調査)	6	5		2	13
	16	8(土)	みんなの畑				3	3
6	17	9(日)	花水子ども大会		400		3	403
	18	12(水)	生きものがかり隊(草刈り)				3	3
	19	19(水)	松原小学校観察会	3	60		2	65
	20	22(土)	ヤギ島探検ツアー	32	35	2	8	77
	21	29(土)	生きもの調べの会	16	18		4	38
	22		暮らしと自然の博物館				1	1
7	23	6(土)	早起きバタフライガーデン	4	1		4	9
	24	7(日)	みんなの畑	2	1		2	5
	25	20(日)	川の自然楽校	15	15	2	12	44
	26	27(土)	ガーデン作業/生き物調べ	5	7		4	16
	27		暮らしと自然の博物館				1	1
	28	7(水)	ガーデン水やり	1	2		3	6
	29	24(土)	バタフライガーデン作業	2	2		4	8
	30		暮らしと自然の博物館				1	1
	31		29(木)	中等教育学校	1	6		2
	32	8(日)	ナイトウォーク	21	22	1	3	47
11	33	26(木)	中等教育学校	1	6		1	8
	34	28(土)	ハッタ飛ばし大会	10	13		3	26
	35	10(金)	八幡小学校(自然観察)	4	63		1	68
	36	12(土)	岸壁採集	13	15	1	3	32
	37	13(日)	ダンボールアート	12	17	1	6	36
	38	19(土)	ガーデン講座	3	3		4	10
	39	3(土)	ピーチコーミング	6	4		3	13
	40	4(日)	バタフライガーデン 定植	6	6		3	15
	41	10(日)	湘南ピクニック土手の下のSDGs	150	150		12	312
	42	14(日)	中等教育学校自分ラボ	1	4		2	7
12	43	23(土)	カマキリ調べ	4	4		3	11
	44	28(木)	中等教育学校自分ラボ	1	4		1	6
	45	1(日)	みんなの畑 落ち葉集め	4	6		2	12
	46	7(土)	日本自然保護対象授賞式	39	12		11	62
1	47	15(日)	中等教育学校自分ラボ	1	4		1	6
	48	19(木)	中等教育学校自分ラボ	1	4		1	6
	49	11(日)	お散歩バードウォッチング	6	5		4	15
	50	16(木)	中等自分ラボ	1	4		1	6
	51	18(土)	みんなの畑(温床づくり)	3	7		2	12
	52	19(日)	ピーチコーミング	14	13		3	30
	53	22(水)	松原小学校観察会	3	48		1	52
	54	25(土)	秘密基地づくり	24	24	1	3	52
2	55	8(日)	みんなの畑	1	1		2	4
	56	9(日)	地べた探検	14	10	1	3	28
	57	23(土)	大展示会	10	10		9	29
	58		大展示会	10	10		6	26
	59	2(日)	お散歩バードウォッチング	6	5		3	14
	60	6(木)	中等自分ラボ	1	10		1	12
	61	15(土)	みんなの畑	2	4		2	8
	62	22(土)	アウトドア講座	13	15	1	5	34
合計				628	1244	11	233	2116

## 今、一番大切なこと

### 人の輪づくり

2025年度は活動25周年を迎えます。「子どもが元気、生きもの元気、地域が元気」を合言葉に活動を展開してきました。できていること、そうでないこと、いろいろですが、スポーツグラウンド等になることなく、自然の遊び場を残せたこと、子どもたちの遊び声が聞こえる楽校になったことを誇りとしています。

2024年度は公益財団法人日本自然保護協会より、「自然保護大賞・選考委員特別賞」をいただいた他、国土交通省「手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞するなど、嬉しいことが続きました。

何よりも嬉しいのは馬入水辺の楽校を軸に人の輪ができ、とても良い人間関係ができていることで、この道をずっと信じ続けて、25年間、前に向かって来たことの成果の現れと思っています。

気になっていることが三つあります。一つは身の回りに普通に見られたニホンミツバチやツバメ、コサギなどが姿を減らしていることです。そのことに気がついている人が少ないのも心配事です。もう一つは子どもたちの自然離れが進んでいることです。昆虫採集を一度もしたことがない子、日の出、日の入りを一度も見たことのない子が大勢いるそうです。水辺の楽校のバツバ飛ばしで草むらに入れない子がいました。聞くと、怖いとのことでした。60人余の子供たちが捕まえたのはほとんどがオンブバツバで、飛翔力のあるトノサマバツバを捕まえることができたのはほんの少数でした。

一番の心配事は水辺の楽校の運営体制の強化です。現状はオールボランティア体制で人、モノ、資金が不足しています。長期運営の仕組みづくりが必要です。馬入水辺の楽校のフィールドミュージアムづくりを通して、課題の克服を目指します。多くの皆様のご支援をお願いいたします。

2025年4月1日

NPO法人暮らし・つながる森里川海

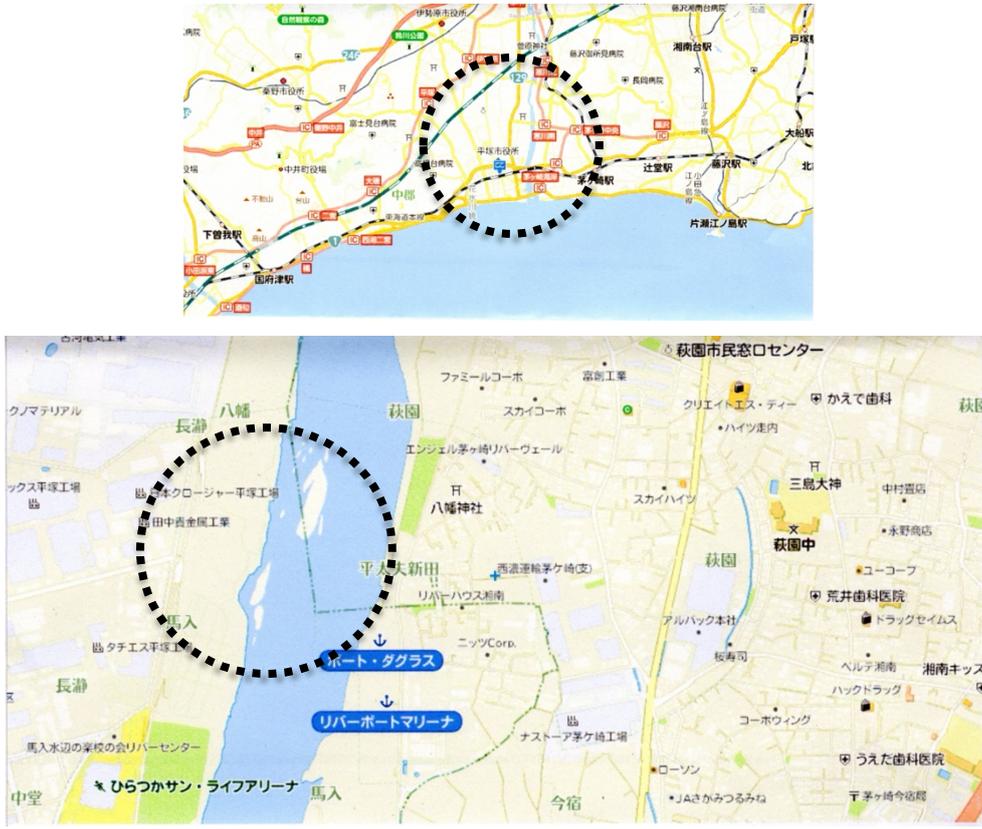
理事長 白井勝之

下記の団体から助成をいただきました。厚く御礼いたします。



河川  
基金

一般社団法人 関東地域づくり協会

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-017	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進	NPO 法人暮らし・つながる森里川海 理事長 白井 勝之
主な実施箇所	神奈川県平塚市相模川（馬入川）：馬入水辺の楽校	
助成事業の主な実施箇所		
	遠景	近景
河川基金ロゴ等表示状況写真		